Corynebacterium属が起炎菌として疑われた重症難治性副鼻腔炎の1例

佐藤　大　横井秀格　小柏靖直　大貫崇博
佐藤佑樹　大富凱豪　甲能直幸
杏林大学　医学部　耳鼻咽喉科・頭頸科

Corynebacterium属菌はグラム陽性桿菌であり，多くは人の皮膚，口腔，鼻咽腔などの正常常在細菌叢を構成する一員であるが感染症の原因菌になることはあまり知られていない．今回われわれはCorynebacterium属が起炎菌として疑われた重症難治性副鼻腔炎を1例経験したので報告する．

症例は74歳男性，左前頭部，頬部痛が持続するため脳神経外科受診．頭部MRIにて副鼻腔炎を疑われたため近医耳鼻咽喉科受診しLVFXにて加療するも改善なく，他院耳鼻咽喉科に入院となり上顎洞洗浄施行し，CTM→GRNX→PIPC＋CLDMにて加療行うも改善なく当院紹介となった．当院受診時に上顎洞洗浄行い黄白色の多量の壊死組織を認めた．前医CTにて上顎洞壁の辺縁の不整，眼科内への浸潤影，MRI T2強調画像にて上顎洞内に低信号の腫瘤認め真菌や悪性腫瘍も否定できない所見であった．入院後も，前頭部の疼痛が非常に強い事もあり入院5日後に緊急ESSを施行した．中鼻道より広範囲に壊死組織を認めた．中鼻甲介や鉤状突起も壊死しており，周囲組織は非常に易出血性であった．外切開を併用にて上顎洞前篩骨洞前頭洞を開放し，前頭洞へTチューブ挿入を行った．前頭洞，上顎洞内も多量の壊死組織を認めた．術後より自覚症状の著明な改善を認めた．外来受診時，手術時の組織検査では炎症性壊死のみで腫瘍や真菌を疑う所見はなく，培養検査でも真菌の発育はないがいずれの検査でもCoryneform gram positive rodが検出されたためCorynebacterium属が起炎菌である副鼻腔炎と診断しMINO投与にて経過観察中であり，菌の同定検査を実施している．